



低所得世帯の 家計管理・金融排除 (アンケート調査からみる実態)



調査の目的

▼生活保護受給・施設での福祉サービス給付を受けていない低所得世帯における「家計管理上の困難」や「金融排除」の実態を確認する。

- ・FD調査では確認できなかった「家計管理上の困難」や「金融排除」事例の確認、異同の確認

調査の対象

▶ 57件のインタビュー調査のうち

- ・生活保護受給
- ・施設で生活

で等価可処分所得20万円を超える世帯（4件）

を除く26件を対象

→高齡9件（うち路上1）、障害2件、定住外国人5件

多重債務歴1件、ひとり親世帯4件、路上生活3件

非正規就労7件（うち非高齡）

（重複アリ）

(1) 高齢者（路上生活除） のケース

- ▶ 平均月収 1 3 7 千円（無回答の 1 件除く）
 - ・ 収支がなんとか均衡している世帯が多いが、預金までは厳しい
 - ・ 2カ月1回の年金支給で資金繰りに苦労している世帯多い
 - ・ 病気・要介護時の不安
- ▶ 平均預金 1 0 2 5 千円（無回答の 1 件除く）
 - うち預金ゼロ 1 件、4 0 0 0 千円が 1 件（→5 3 8 千円）
- ▶ 口座は全員あり
- ▶ すべて公的年金受給
- ▶ クレカ所持者は 4 / 8

(1) 高齢者（路上生活除）の ケース

▶ 壮年期からの家計管理が必要だった（70歳以上、預金30万）

勤務時代（不動産）は給与が高かったが、十分に貯金せず、その後自営業営むも破産して、持家以外の資産無し。生保も検討中。

▶ 家族支援で安定（70歳以上、月収10万円（年金）、預金400万）

以前生保受給していたが、現在は月1万程度貯金。郵便局に定期貯金あり。年2回子どもからの支援あり

▶ 家賃負担軽減で改善（70歳以上、月収12万（年金）、預金ほぼ0）

家賃負担が重く収支の赤字が続き預金も底をつきかけたが、区立公営住宅に入居することが（運よく）できた。友人から教えてもらった支援団体が手続きなどサポートしてくれた。

(1) 高齢者（路上生活除）の ケース

▶ 金融サービスの利用の困難

- ・ 銀行の支店が無くなり、ATMのみになり、利用が難しくなった
- ・ 「高齢になり連帯保証してくれる親族もすくない。無担保無保証でお金を借りられると安心であると感じる」
- ・ 生活福祉資金貸付について
知っている（利用あり）1件、知らない1件

(2) 定住外国人のケース

- ▶ 平均月収 276 千円
- ▶ 平均預金 60 千 (1 件 (300 千) のぞき 0 円)
 - ※夫が管理しており把握していないと思われるケースも
- ▶ 世帯人数 3.2 人 (6 人 1 件、4 人 2 件、1 人 2 件)
 - 収入自体は低くないが家族多く生活には余裕ない
(親族への送金もある)
- ▶ 預金口座は全員あり
- ▶ クレカ所持者は 2 / 5

(2) 定住外国人のケース

- ▶ **親族間の関係強い**
 - 親族への定期的な送金 (手数料1500円かかる)
 - 資金不足時の親族の支援
 - 一方知人からの借入は避けられる傾向
 - 質屋利用しているケースもあり
- ▶ **支援団体**が生保申請支援したり、貸付したりしている
- ▶ **国籍を理由とした排除は確認できず。**
- ▶ **日本の福祉的貸付制度の認知は低い**

(3) ひとり親世帯のケース

- ▶ 平均月収 260千円 (無回答の1件除く)
本人収入のみだと230千円
- ▶ 平均預金 7066千円
(うち1件20000千円→除くと600千円)
(※50歳代・月収250千円・預金2000万(相続財産))
- ▶ 銀行口座は全員あり
- ▶ クレカ所持は3 / 4
- ▶ 非正規雇用は1 / 4

(3) ひとり親世帯のケース

▶ 教育費負担の重さ

・収入の少なさ、奨学金返済の重さを子ども自身が認識して、大学進学をあきらめた。高卒で安定的な仕事に就くことは難しいと認識しており、なんとも言えない気持ち。学費分を貸与することができても、通学や友人との交際にお金がかかると考えられ、進学しても通常の学生生活を送れないと思う

- ・ 子どもの教育費のために保険を解約した
- ・ 生活費のために子どもの習いごとをやめさせざるをえなかった。

▶ 低賃金ゆえの生活困難

・ 正規雇用であるが低賃金（ケアワーカー）。子どものコンビニアルバイト2店舗掛け持ちでなんとか生計を維持している。（※定住外国人のケースでもある）

▶ ときおり親族からの援助あるが常には頼れない

(4) 非正規雇用のケース

- ▶ 平均月収 2 3 0 千円
- ▶ 平均預金 1 5 7 千円 (5 / 7 が預金 0)
- ▶ 全員が預金口座あり
- ▶ クレカ所持率 3 / 7
- ▶ 他のカテゴリーとの重複
障害 2、定住外国時人 2、ひとり親 1、重複なし 3

(4) 非正規雇用のケース

▶ 不安定な収入

- ・パート労働で連休続くときは収入少なく生活が困難になる。預金は困難。
- ・会社の都合で勤務日・勤務時間が変動し、定まった収入がない
- ・二つのパートを掛け持ち、親族への送金あり毎月赤字。食べ物を切り詰め、支援団体の食料支援でしのぐ。歯痛がひどいが窓口負担が重く通院していない（定住外国人のケース）
- ・現在は年金もあるので生活が安定しているが、就労できなくなれば生活保護利用考えている（受給歴あり。高齢者のケース）

(4) 非正規雇用のケース

▶ ATM

- ・手数料なし利用時間に利用できない
- ・タンス預金をしている

▶ 金融機関利用歴

- ・カードローンで破産歴あり、カード作れない（2件あり）

(5) 路上生活者のケース

3件とも、所得・預金なし。国保も支払い無。クレカ・口座もなし

▶ 路上生活の経緯

- ・ 家賃滞納→追い出され、家財を一切処分されてしまった。

▶ 生活

- ・ 廃棄処分のパンなど
- ・ 炊き出し、知人からの支援

考察

- ▶ 路上生活者以外、銀行口座は有している。
口座を持たない、という意味での金融排除は少ない。
- ▶ クレカ未所持者は非正規労働者に多い。
- ▶ 収支に余裕なく、将来に不安を抱える世帯が多い
(高齢者は将来の病気を不安)
- ▶ 公的貸付制度に対する認知は低い
- ▶ 親族からの支援がある場合は、比較的生活は安定している
= もしものときのバッファがある場合は急な生活困難を回避できる

考察

- ▶ **適切な金融サービスへアクセスできないことが引き起こす生活上の問題**
 - ・ 子どもの進学の断念、習い事をやめさせる
 - ・ 保険解約（現在の生活vs将来の生活）（将来の保険事故対策vs将来の学費）
 - ・ 食事の制限、通院の断念
- ▶ **それぞれのカテゴリーで特別の金融ニーズ（現行の金融への不満）ある**
 - ・ 定住外国人：母国への送金手数料高い
 - ・ ひとり親家庭：子どもの教育資金の借入（学費以外分も含む）
 - ・ 非正規労働：収入の不安定（一時的な支出超過への不安）
ATMの利用時間帯に不便を感じている
 - ・ 高齢者：連帯保証してくれる親族の不在（無保証で貸す金融機関が少ない）